

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム 虹の家 白石	評価実施年月日	平成19年8月20日
評価実施構成員氏名	池田 芳子 山下 あけみ 小松 五十子 伊藤 恵子 大野 美貴	平 道弘 成田 恭子 釣井 雅子 吉澤 のぶ	
記録者氏名	大野 美貴	記録年月日	平成19年8月24日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	虹の家の理念として、一人一人の利用者様を支えていく事を掲げて取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 今までの理念は長文で複雑だったため、今年度からは利用者様や家族の方にも解りやすく明確化した。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を理解し、意図する事に添って実践をしている。申し送りで唱和し共有している。	<input type="checkbox"/> 理念は廊下やホールなどいつも目につく場所に掲示して意識をして働いている。 <input type="checkbox"/> 理念を書いたカードを作成し職員全員携帯出来るようにしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内会の活動に参加をしたり、運営推進会議の発足により地域の方々に日々の活動を説明をしたりと多くの人々に理解をして頂けるようにしている。	<input type="checkbox"/>
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の方が雪かきを手伝ってくださったり、朝のゴミ捨てや散歩の場面で会話をしたりしている。	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の運動会・納涼祭・収穫祭などの催しある時はお誘いをして頂き参加をしている。	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方々に貢献出来る様に今後努力をしたいと思う。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議などで何か地域に貢献できるものがないか話し合いを持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回指導を受けた点については改善できている。また、他に改善すべき点はないかもカンファレンスの時に話し合っている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では今まで行ってきたことの報告をするだけでなく、今後実施をしてゆきたいことに対して意見を頂いてサービス向上に活かしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の窓口で職員が出向くことは多いが、サービスの向上までには至っていない。</p>	<p>○ 地域の方々の生の声が窓口で伝わってサービスの向上に繋がられるような活動をしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度の研修や実務者研修を受講し学ぶ機会を作っている。</p>	<p>今後研修での学びを職員全体で活用できるような取り組みをしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当グループホームでは皆無である。介護者一人一人が言葉掛けや介護動作に配慮をしている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に不安を軽減して頂けるように説明を十分行っている。入居後もその都度説明を行っているので理解をして頂いていると思う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員が苦情や意見を受けた場合、利用者様やご家族、管理者・経営者も交えて話し合う場を作り、改善策を検討している。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会にご家族がいらした時はその都度近況報告をしている。また、体調などに変化があった時はご家族宅へ電話をして報告をさせて頂いている。</p>		<p>毎月、虹の家便りを発行し行事参加や日常の生活の報告を行っている。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族にお声は掛けているが、今の所ご家族からの不満は聴かれていない。</p>		<p>不満や苦情が出しやすいよう、ホームに意見箱を設置している。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送りのときや、ケアカンファレンス等で意見交換を行い、実行可能なものは実施している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>限られた職員数の中で柔軟な対応をしてゆくのは難しいが、職員が協力し合って要望に対応する努力をしている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>昨年の評価時期からは職員は5人変わっているが、ここ半年以上は退職者はいない。利用者様にとってなじみの職員が去ることは大変なダメージであることが予測できるので、退職者が出た時には最善の配慮をして行きたい。又利用者様が新しい職員に心が開けるまではフォローをして行きたいと思う。</p>		<p>職員の異動は利用者様にとって良いことではないと考える。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者から研修に出るように要請があった場合はシフトの変更などをして出席しやすいようにしている。研修には出来るだけ職員全員が出られるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修などで他施設の見学をしたり、意見交換をしている。管理者も管理者会議に出席をして情報交換をしている。	白石区内のグループホームがネットワークを作り、お互いに訪問をしあって良い所を吸収できれば良いと思われる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は話し合いの場を作り、各個人のストレスの軽減に努めている。	休憩時間や休憩場所の確保をすることで、気分転換ができるように工夫をしている。 有休を取り易いようしたいが、人数的にシフトを組んでいるため容易に取ることが出来ていない。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は個人の努力を認めていると思うが、形として現れてはいない。職員一人一人は向上心をもって実行していけるよう努力をしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	困っていること不安な事を表現して頂けるよう関わっているが、個人差があり、すぐに馴染んで頂ける場合と、数ヶ月の時間を経て信頼関係が出来る場合がある。あせらず、気長に信頼関係を築いてゆけるよう努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時に家族からよくお話を伺って、家族は何を願っているのか、利用者様にとって何が望ましいかを受け止め、対応している。初期だけではなく、入居後も引き続き話しを伺っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	電話による相談や申し込み、見学にいらした時には話をよく聞き当グループホームで対応できる内容についてご説明をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様のペースに合わせて声掛けや見守りを行い、徐々に馴染みの関係を作ってゆけるよう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様は人生の先輩であり長い歴史を作った方々なのでいろいろ学ばせて頂くこともある。よくお話を聞かせて頂いたり、利用者様が出来る事を見つけて頂き自信を持って過ごして頂いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に利用者様がどのように過ごされているか報告をすると、「家ではそんなことしないのに」と喜んで頂けたり、「昔はちゃんとしていた人なのに」と家族が落胆された時には年齢的なものであると助言をしている。又ご家族からは利用者様の若い頃の情報を教えて頂いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	同上		行事にはご家族を誘って、参加をして利用者様と一緒に過ごして頂けるようにしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。 (例 電話連絡や宅配便を望む利用者様への支援など)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	行事やレクに参加をして頂き、楽しみを共有して頂いたり、助け合う機会を作るようにしている。利用者様が他の利用者様の悪口や批判を言う場面がみられたら、職員が間に入って話題を変えている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院をされた方へお見舞いに行き様子をうかがったり、亡くなった利用者様の家族を訪問し仏前にお参りをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話だけではなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察して、本人本位の生活とは何かを検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員は生活歴などの話を聞いた際は記録に残して情報を共有するように努めている。又、センター方式の書式に添って情報を整理して把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員が得た情報は24時間チェックシートと個人記録用紙に記録をされ職員全員が利用者様一人ひとりどう過ごされているか把握できるように努めている。		個人記録には利用者様の心身状態についてその都度記録に残すように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の申し送りのときや、ケアカンファレンス等で意見交換を行い、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直ししている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	評価時期や、現状に変化があった場合は職員同士意見交換を行って対応策を検討してプランを追加している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員が得た情報は24時間チェックシートと個人記録用紙に記録をされ職員全員が利用者様一人ひとりどう過ごされているか把握し介護の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当グループホームではデイサービスやショートステイは行っていない。		病院受診の送迎などを必要なときには対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回のギター教室のほか、合唱団のボランティアが訪問して頂いている。又、消防署にお願いをして年に1度消防訓練を行い地域で安全に暮らして頂く支援をさせて頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今までは訪問理美容サービスを利用していたが、利用者様の意向に合わせて近所の理容室へ出掛けて利用するようにしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1回運営推進会議に参加をして頂いている。その時に日々の活動状況を報告し、地域包括支援センターの方々から評価や助言を頂いている。把握		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月に2回の訪問診療、毎週1回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があったときにはその都度主治医に報告をして指示を頂いている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医は認知症の専門医ではないが、症状を報告、相談をしてその都度対応をして頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護を利用している他、当グループホームの管理者が看護職なので、日常の注意点を指導してもらったり、何か変化があった場合も相談をしたいる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合は、管理者が入退院の相談窓口となり、利用者様やご家族の対応を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のケアは今のところ経験はない。今後、高齢化や重度化していった場合を予測して利用者様やご家族、主治医と話し合いを持って当グループホームとしての方針を検討してゆかなければいけないと思う。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同上		急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	今まで住み替えはなかったが、今後そのようなことがあった場合には、利用者様が新しい居所に馴染みやすいよう家族や利用関係者へグループホームでどのような過ごし方をされたのかを伝えていく必要があると思われる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけには職員全員意識をしながら行っている。(一部ケアプランにも具体例をのせている) また、利用者様の前で職員同士が他の職員の話をしていないよう心掛けている。個人記録も頭文字で対応している。		センター方式の学習会を開き、利用者様の尊厳について職員全員で考える場を作った。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分でなかなか判断できない場合は、2つのうち1つを選択して頂くなどの工夫をして、出来るだけ個人の好みに添える働き掛けをしている。ご本人のペースに合わせて、無理に勧めるような事はしないように心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペース配分を考え、柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝、自分で着る服が選べない方には「どちらがいいですか？」と職員も手助けをしながら本人に選んで頂いている。訪問理美容を利用しているが、希望者には外出をして散髪をして頂いている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえや茶碗洗いなどで利用者様が一緒に活動出来るように一人ひとりに合わせた働きかけをしている。		職員が利用者様に作り方教えて頂いたり、味見をして頂いているものもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは糖尿病や肥満の方を考慮しながら日常的に提供している。タバコやお酒は家族の希望もあり、ホーム内では認めていない。その代わりに外出時や散歩の時に離れた席で個人的に楽しんで頂いている。		定期的に好みの漬物を近所まで買いに行く利用者様もいる。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は排尿リズムを考慮しながらトイレ誘導を行い、下着のみ又は尿パット使用で過ごして頂いている。夜間のみリハパンツを使用しているため完全なおムツの方はいない。夜間も尿器やポータブルトイレを設置して排尿が間に合うように心掛けている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された日に入ってもらっているが、希望がない場合でも少なくとも週に2回はお誘いをして入ってもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭、ドライシャンプーなど利用者様に負担のかからない方法を考慮している。		入浴介助について一人ひとりの介助の必要な内容や、本人の好みの入り方について表に明記している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中のレクに参加をして頂いても、利用者様の表情などをみて休息を促している。一人ひとりのペースに合わせて見守りを行っているが良眠されているように見受けられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理手伝い・食器片付け・自室の掃除・洗濯物たたみなど、出来ることを見つけ出して役割を持っていただくよう支援をしている。毎日のレクの他にも誕生会やクリスマス会、敬老会など年中行事を企画して楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出や散歩の時には小銭を持って頂き、好きな物を購入する楽しみを感じて頂けるようにしている。ただ、物忘れや物取られ妄想がある方もいるので基本的にはスタッフが見守り、管理をしている。		一人ひとりのお小遣い帳を付け家族にも確認をして頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員と一緒に近くの公園まで散歩をしたり、近所のスーパーまで利用者様の買い物に付き添っている。行事として出掛けて外食を楽しんだり、家族との外出を楽しんでも頂いている。		シフト上日中のスタッフを多く確保をして「外出デー」をつくるようにしている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見や雪祭り、デパート見学などを企画して、車イスを使用されている方も気軽に参加をして頂いている。家族と出掛ける喜びや好きな物を食べられる楽しみを感じて頂けるよう支援をしている。		今後、回転寿司ツアーも考えて行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の事情を考慮した上で、本人が電話を掛けたいと希望があればいつでも対応している。手紙も書くことが出来る方にはお手伝いをして、家族からのお手紙もお渡しして行き来を楽しんで頂いている。		電話はワイアレスの子機を使用していただき、必要時には字自室からでもお話が出来るようにしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に訪問に来て頂いている。ご家族が宿泊される時は、利用者様と一緒に食事もお供え頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はあってはいけない行為であると職員全員が認識を持って働いている。		拘束をしないで、安全健やかに過ごして頂けるよう、困難な事例が出てきても職員全員で考え解決策を考えて行きたいと思う。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関を開放して外気浴などが出来るようにベンチを設置している。玄関のセンサーが反応すると職員は利用者様にお声を掛け外出を希望された場合は、行き先や理由を確認して対応をしている。 (夜間は施錠をしている。)		利用者様の中には定期的に買い物に行くことで閉塞感の軽減に努めている事例もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	台所は視覚的にも聴覚的にも死角になるため、職員が台所に入る時には注意をしている。ホールでお話をしながら様子を伺ったり、居室から出てこれない利用者様へお声を掛けたりするほか、物音にも注意を払っている。		職員は24時間チェック表や個人記録、申し送りを通して全員の状況を把握して安全に配慮をしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品や洗剤などは鍵のついている物品庫に保管をし使用するときに取り出すようにしている。包丁などは見守りながら利用者様にも使って頂き、夜間は布に包んで戸棚に保管をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの起こりうる危険因子に対してケアプランを立てて職員全員で取り組んでいる。転倒などが起こった場合はヒヤリ・ハットの書式に沿って原因を追究し改善策をたて、家族への説明内容や反応について記録に残している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成し、それぞれのケースに合わせた対応方法を載せている。緊急時の連絡網や報告をする内容についても明記している。救命救急の講習を受講している職員もいる。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害発生時の役割分担・連絡先を明記して掲示している。避難場所として近くの公園だけではなく町内会の会館を利用させて頂けるようにしている。定期的に避難訓練・消防訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクに対するケアプランを立案し、ご家族にもご説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	24時間チェック表で、食事や飲水量、排泄の有無を確認し、異変があればバイタルチェックや個人記録に詳細を記入して管理者に報告を行っている。必要時は主治医へ連絡をして指示をもらっている。		個人記録用紙と一緒に利用者様の既往歴や内服薬の内容を記載したものが挟んである。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用法・副作用等は「服用薬品名カード」に明記されている。又、内服変更があった場合は「医療ノート」に理由と変更内容・注意点を書いて申し送られ、職員全員が把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	身体を動かすようレクや体操に誘ったり、水分摂取を適宜おすすめして、自然排便を促すようにしている。便の回数や量・性状を確認して下剤が効きすぎているか確認をしている。		24時間チェック表で、食事や飲水量、排泄の有無が一人ひとり把握できるようにしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの力に応じて、声を掛けたり介助をしながら口腔ケアを行っている。月に2回は入れ歯洗浄剤を使用した消臭・消毒作業も行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日1500kcal前後で献立を作成し、一人ひとりの体調に合わせて盛り付けている。好き嫌いがあるので残してしまうことがあり、予測できるメニューは代替を提供して対応をしている。24時間チェック表で、一人ひとりの食事摂取量や飲水量を職員全員が把握できるようになっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを徹底するよう努めている。感染症予防マニュアルや「手洗い」「おう吐物の処理」について資料があり、マニュアルどおりに対応をしている。		インフルエンザの予防接種は毎年受けている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具などはハイターや食器乾燥機を使って毎日消毒を行っている。食材は業者から毎日新鮮なものを納入されてほぼ使い切っている。熱を通す調理を主に提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		利用者様と思い出のアルバムを一緒に見ながら、昔話を楽しんで頂いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>「出来ること」「出来ないこと」を観察・評価をして何を手助けすれば自立できるかを検討しケアプランをたてて取り組んでいる。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先に色とりどりの花を飾ったり、建物の側に花畑をつくり、鑑賞や水やりを楽しめるようにしている。</p>		<p>ベンチを設置して、ゆっくりと鑑賞が出来るようにしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>	個々の個性や生きてきた過程によって考え方も違ってくるので100%理解をするのは難しいが、一人ひとりの思いや願いに添えるように心掛けている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② <u>数日に1回程度ある</u></li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>	一緒にTVをみたり、お話をしたり散歩をするなどの時間を大切にしている。ただ、限られた人員やシフトの中で時間を調整するのが難しい場面もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	好きな時間に居間でTVを見たり、好きな時間に自分居室で過ごしたりと、自分のペースで過ごして頂いている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <u>利用者の2/3くらい</u></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	レクは強制ではないので全員の参加はないが、楽しんで参加をして頂いている。散歩などの外出や季節ごとの行事に参加をしている姿は生き生きとした良い表情が見られた。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <u>利用者の2/3くらい</u></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	希望に添えるように対応をしている。また、自らの希望がない利用者様にも職員が利用者様の立場に立って外出先を考え散歩や買い物を楽しんで頂けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	宮の沢ファミリークリニックとの医療連携をして主治医から具体的な指示を頂いている。また、管理者が看護職なので管理者の指導のもと、職員は観察や介護をさせて頂いている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての利用者</u></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>	要望に添えるよう柔軟な対応に心掛けているが、人員の都合でどうしても添えない場合がある。その時は理由を説明して利用者様にご理解を得ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>ほぼ全ての家族</u></li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>	家族の方の面会時や電話での対応時には、気軽にお話・相談ができるような態度で接している。ケアプランに家族の意向を取り入れるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② <u>数日に1回程度</u></li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>	月に1回のボランティアによるギター演奏のほか、少女合唱団・訪問診療・訪問看護・訪問理美容のスタッフが定期的に訪ねている。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている  ②<u>少しずつ増えている</u>  ③あまり増えていない  ④全くいない</p>	会議に参加をして頂いた方々にはグループホームについて理解を深めて頂く事が出来たと思う。参加が出来なかった地域の方々にも理解を深めて頂くためにも、近隣の理容室やスーパーへ利用者様と出掛ける機会を作っている。
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①<u>ほぼ全ての職員が</u>  ②職員の2/3くらいが  ③職員の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>	職員全員、利用者様に明るく優しく声をかけ、思いやりを持ちながら働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が  ②<u>利用者の2/3くらいが</u>  ③利用者の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>	共同生活によって自由にならない事や他利用者に対する考えなど一人ひとり不満はあると思われるが、おおむね満足されている様子。「やっぱり、此処が一番良い」という言葉も聞かれている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①<u>ほぼ全ての家族等が</u>  ②家族等の2/3くらいが  ③家族等の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>	家族との会話や表情から判断をしても、おおむね満足をして頂いていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

今年、虹の家「理念」の見直しをしてわかりやすい文章に改善をした。利用者様をはじめ家族や地域の方々にも虹の家の理解を深めて頂き、職員全員が実践できるよう心掛けている。